

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	6	学校名	浜松聴覚特別支援学校	校長名	藤田 延江
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

① チーム対応力を高め安全・安心な環境を整備し、効率的、効果的な学校運営を行う。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心・安全な学校生活を送るための環境及び体制づくりの推進	緊急時に対応できる教職員の対応力の向上と学校組織の構築ができたと答える教職員 100% (保健体育課)	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB89%	○AED や嘔吐物処理の研修を通して、緊急時の対応方法を確認できた。食に関する指導を学校全体で進めることができた。 △臨機応変に対応できるように、様々な状況を想定した研修を行いたい。
		災害や事故発生時に自らの命を守ることや事故が起きないように気をつけることができる児童生徒の育成ができたと答える教職員 100% (生徒指導課)	職員評価 AB 100%		○危機管理マニュアルの修正作成が図れた。 △今後は周知と検証、修正を行っていききたい。また、児童生徒、職員、保護者の災害への意識や対応力を高める訓練の実施を図っていききたい。
		道徳や日常的な指導を通して、自他を大切にし相手を思いやる気持ちの育成を図ることができたと答える教職員 100% (生徒指導課)	職員評価 AB 97.2%		○道徳教育指導表を主軸に道徳教育の推進が図れた。 △道徳の授業の充実だけでなく、道徳の根幹である、社会通念、モラルの指導の強化も図っていききたい。
		学校経営予算の効率的な執行による修繕箇所の手当ができたと答える教職員 100% (事務部)	職員評価 AB 94.3%		○施設の老朽化により、限られた予算の中での対応は難しいところもあったが、幼児児童生徒の安全に関わる箇所は早期修繕できた。
イ	交通事故、不祥事根絶に向けた校内体制づくり	交通事故・不祥事根絶に向けた職員の意識向上ができたと答える教職員 100% (全職員)	職員評価 AB 100%		○交通事故0件、不祥事0件 △個人情報の扱いについての意識向上、校内規定の共通理解と遵守をさらに図りたい。

様式第3号

②聴覚障害教育の専門性を発揮し、言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践し言語拡充と基礎学力の向上を図る。

ア	<p>「きこえにくさ」とそれに伴う特性の理解と、コミュニケーション力、対応力、指導力の向上</p>	<p>聴覚障害教育における専門性を発揮した指導力の向上ができた と答える教職員 100% (自立活動課)</p>	<p>職員評価 AB 100%</p>	<p>保護者評価 AB97%</p>	<p>A ○学習会を企画運営し、おおむね良い評価を得られた。 △一部の学習会の実施方法を検討し、より指導に活かせる学習会を考えていく。</p>
イ	<p>発達段階に応じた言語力の獲得と基礎学力の定着を図る授業実践</p>	<p>授業・指導を通して担当する幼児児童生徒の成長が見られたと答える教職員 100% (研修課)</p>	<p>職員評価 AB 97%</p>	<p>保護者評価 AB100%</p>	<p>A ○授業公開の機会を設定し、一人一人が個々の授業の目的を明確にして授業改善を図れた。△来年度は学習会を設定し、授業づくりについて学ぶ場となるようにしていく。</p>
		<p>保護者が子どもとよりよく関わることができた と答える教職員 100% (支援部)</p>	<p>職員評価 AB 100%</p>		<p>A ○両親教室を通じて関わり方だけではなく生活面についても伝えたことで、保護者の意識が向上していた。 △校内の職員以外の協力も仰ぎ、両親教室の充実を図りたい。</p>
		<p>言語の基礎となるあそびの充実ができた と答える教職員 100% (幼稚部)</p>	<p>職員評価 AB 100%</p>	<p>A ○あそびの時間を確保し、ダンボールあそびやうんどうあそび等集団で活動することにより自分の思いを言葉で伝える基礎が育ってきた。 △友達と伝え合える言葉の力を伸ばしていきたい。</p>	
		<p>基礎学力の定着を支える言語拡充ができた と答える教職員 100% (小学部)</p>	<p>職員評価 AB 88%</p>	<p>B ○イベントやニュース、天気などタイムリーな話題を挙げて、言語拡充を図ることができた。 △興味がある子だけで盛り上がりず、みんなで共通理解しながら進めることを確認したい。</p>	
		<p>・日々の授業実践における生徒の基礎基本の定着と深い学びが展開できる授業力の向上ができた と答える教職員 100% (中学部)</p>	<p>職員評価 AB 87.5%</p>	<p>B ○対話の場面を意図的に設定することにより、生徒主体で思考を深め合うことができた。 △授業研究(事前・事後)を通して、教師の指導・支援方法、環境設定、働き掛け等について考え、授業力をさらに高められるようにしたい。</p>	
ウ	<p>読書活動を通じた言語力向上の基礎づくり</p>	<p>読書活動の推進による生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上ができた と答える教職員 100% (教務課)</p>	<p>職員評価 AB 100%</p>	<p>A ○様々な取組を行ったことで、本に親しみ、読書に興味をもつきっかけをつくることができた。(上の学部から下の学部への読み聞かせ、お薦め本の紹介等)また、定期的な浜松市立図書館からの本の貸し出しにより、本に幅広く触れる機会をつくることができた。</p>	

様式第3号

エ	校内における専門性の向上と継承	自らに必要な新たな知識や技能等が身についたと答える教職員 100%	職員評価 AB 97.1%		A	○学部内で目的に応じたOJTのペアやグループを作り、普段から学び合える体制を整えた。自ら質問をすることが増えるなど、積極的に学ぶ職員が増えた。
---	------------------------	-----------------------------------	---------------------	--	---	---

③ 個の実態を踏まえ、社会自立に向けて生活力を豊かにする自立活動を実践する。

ア	社会自立に向けて必要な力の習得や向上を図る自立活動の実践	日常生活の自立に向けた児童生徒個々の生活力の向上ができたと答える教職員 100% (寄宿舎)	職員評価 AB 100%	保護者 評価 AB 94%	A	○個別の指導計画の作成や評価を通して個々の舎生に合わせた指導を行うことが生活力向上に繋がった。 ○行事を中心に舎生が主体的に取り組み、自分の役割、責任を果たすことができた。
		保護者と共に行う自立活動の充実ができたと答える教職員 100% (幼稚部)	職員評価 AB 100%		A	○保護者と一緒の自立活動の授業(学級自立・個別指導)を通して、個々の課題を共有し、学校だけでなく家庭の取り組みに繋げることができた。
		自己の将来や夢につながる指導の系統性と内容の充実ができたと答える教職員 100% (小学部)	職員評価 AB 92%		A	○個別の検討会や面談を通して、教員間や保護者と共通理解を図りながら進めることができた。 △話し合える時間の確保に努め、計画的に進めていきたい。
		日々の生活や自立活動を通して、障害認識を深めるとともに、適切な進路を選択する力の向上につながったと答える教職員 100% (中学部)	職員評価 AB100%		A	○聴覚障害を有する教師や卒業生から体験談を聞くことで、将来の生活における自己の課題に気付くとともに、課題を解決しようという思いをもつことができた。 △自己の障害認識を深めるとともに他者理解、他者を尊重する気持ち、姿勢を高めていきたい。
		補聴援助システムを効果的に活用できる技能の向上ができたと答える教職員 100% (自立活動課)	職員評価 AB 100%		A	○基本的な使い方を確認したり、毎月1回朝の打合せで啓発したりしたことで、意識付けを図ることができた。
		通級生が聴こえについての自己理解が深まったと答える教職員 100% (支援部)	職員評価 AB 100%	通級生 保護者 ()	A	○自己理解を進めたことで、在籍校でリーダーとして活躍することへの弾みがついた生徒がいた。 △自己理解を促すために、さらに言葉の聞き取り合いや、グループでの触れ合いを増やしたい。

様式第3号

		進路指導・支援の内容について理解が向上し、進路指導に活かせたと答える教職員 100% (生徒指導課)	職員 評価 100%		A	○進路の手引きの初版を作成した。 △全職員が進路指導の基本的な考え方を理解し（担当学部以外も）、手引き活用と共にキャリア教育を推進したい。 ○中学部では、職場見学、体験や高等部見学を通して、自分の進路について考えることができた。
イ	多様化する児童生徒の実態を的確に捉えた、学習指導や支援の充実と教育課程の見直し	幼児児童生徒の目標、支援内容、実態等について、保護者と教員、また、教員間で情報共有することができたと答える教職員 100% (教務課)	職員 評価 AB 97.1%	保護者 評価 AB 97%	A	○個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用して、保護者、教員間で情報を共有する意識が高まった。また、学年の枠を越えて、教員間で話し合い、情報共有することができた。
		情報機器の有効活用のために、使用のルールや、基本的な使用方法について指導することができたと答える教職員 100% (教務課)	職員 評価 AB 96.9%		B	○一人一台端末の使用のルールや使用方法等を設定し、授業において活用を少しずつ進めることができた。情報担当からアプリの使用について職員に紹介したり、掲示板で紹介したりして活用を推進した。 △教員の意識向上、一人一台端末や電子黒板を有効活用した授業づくりの研修をすすめていく必要がある。

④ 自己理解を深め、地域社会の中でよりよく生きる力を養うための共生教育を実践する。

ア	地域で生きるための力を養う共生教育の実践	地域の自然を活用できた。また、公共の場でのマナーの向上ができたと答える教職員 100% (幼稚部)	職員 評価 AB 100%		A	○四ツ池公園周辺への散歩や学校周辺の買い物などを通し、自然に触れ、公共の場でのあいさつ、マナー等を学ぶ機会となった。友達と一緒に活動する中で、互いに関わり合う様子も見られるようになった。
		個々の自己理解力、対応力の向上ができたと答える教職員 100% (小学部)	職員 評価 AB 100%			○交流では、自分からコミュニケーションを取りに行ったり、積極的に「聞こう」としたりする姿勢が見られた。子どもの視野が広がるいい機会となった。 △意義はあるが、教員間の連絡方法や交流の付き添い方など簡素化できるとよい。
		地域における行事への参加や同年代とのかわりを主体的に深められる生徒の育成ができたと答える教職員 100% (中学部)	職員 評価 AB 75%			○交流籍交流では、同年代の生徒との関わりを通して、自己理解を深めるとともに、卒業後の進路について考えることができた。 △交流の意味づけを丁寧に行うことにより、よりよい共生教育の実践を目指したい。

⑤ 聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

ア	本校教育活動の積極的な発信	・本校に通う幼児児童生徒の実態や教育活動についての理解啓発ができたと答える教職員 100% (支援部)	職員評価 AB100%	見学会参加者評価 A	A	○学校見学会や小学校等での難聴理解授業を通して地域の理解が深まった。 △コロナ禍で実施数や方法等制限していた学校見学をコロナ前並みに実施していきたい。
イ	地域におけるセンター的役割と校内支援体制の充実	校内及び地域その他機関との連携を図ることができたと答える教職員 100% (支援部)	職員評価 AB 100%	乳幼児保護者評価 A		○相談室利用者等への在籍園・在籍校訪問を含め、地域の学校の要請に応じて支援を行った。 △本校とのかかわりが薄い地域(遠隔地)への支援の充実を考えていきたい。